

2005年記録会は4月16日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)です!

2005年記録会は5月21日(日)横浜瀬谷広場(9:00~12:00)です!

15年ほど前<ランチャーズの衰退に歯止めをかけるべく、東京のグリーンパークに入さらいに通い始めた。その効果が出てくるのに10年、それ以降自動的に会員が増加するやに見える。しかし、世の中そんなあまいもんやおまへん。今のメンバーが高齢化する時には、はたして何処に遠征すればよいのか。そこまで考えないとヒコーキが飛ばせないのか。そんなことないな。

しかし、次は団塊の世代が今後の事を考えて欲しい。てな事言って、カッコつけんと言われそうですが、そんなもったい付けるよりも、こんな面白い遊びを若い人達に伝えないのは男じゃない。本当は男よりもカワイイ女の子がイイに決まっている。しかし、すごい可愛い子が来てしまったら、ヒコーキなんか忘れられてしまう恐れがある。そこでピンクのHLG等飛ばして邪悪になる……。その証拠に若い時、根っからのヒコーキ好きも発情期になるとこつ然と消え去る。しかし、結婚に専念するのはバカで、子供が出来るとヒコーキを持って野原に帰ってきた牡を、沢山知っています。ランチャーズはそんな牡の集団なのです。でいいのかな……。

記録会報告	2005年2月記録会 / HLG	2005年2月記録会 / PLG、
	2006年3月記録会 / HLG	2006年3月記録会 / PLG
競技会報告	寒中杯報告	きしめん大会 HLG
お知らせ	国際級規定の一部改定	国内級規定の一部改定
	平城京大会案内	モンゴル国際級大会
FFサロン	最新型吉敷機	500円ハンドランチの勧め
	無尾翼型はばたき機の紹介	
雑談天国	旅装について	
編集後記		

2005年2記録会の結果(HLG / CLG)

2月 HLG 記録会報告

相沢・平尾……

特別寒い今年の冬にしては暖かい日曜日、車がズラッと並んですごい集まり方で早朝から熱気ムンムン。大して賞品がある訳でもないのになんでだろー。

本部を中心として前後30メートルぐらいの車のいない路上に、選手がずらりと集まって気流読みの練習をしている。この朝一の雰囲気作りで成績が左右されるので、各選手真剣である。ここでは声が大きい方が、たくさん投げられるのでランチャーズの朝は騒がしい。

この日は気流が良さそうだが、7/10投勝負では一発目から気の緩みは許されない。又、最近の競技会では、90センチクラスの大きな機体を振り回すので体力の消耗も激しく、競技開始から3時間緊張を持続するのは心身共に疲れる(なら止めたらどうや)。当然ながら体力のある若手(50才以下を言う)は有利である。各選手の投げっぷりを観察すると、UHLGとHLGの高度差は少ない様だ。それというのもUHLGに触発されて、野球投げの高度も上がってきているからである。

さて競技の方は、胴体がパイプのみで機体抵抗の少ない吉敷機が安定よく高度を稼いで、出だし4/5マック

スと図抜けていた。それに続いて3 / 5マックス組5人後を追う。しかし、後半は3 / 5マックスを出した選手が4人しかなく吉敷選手が9投中7マックスと好調を維持して優勝した。堅実な投げをほこる石山選手が6マックスまで行ったが、機体が小さいぶん不利で6秒とどかずで2位。ほぼ垂直に投げ上げてくると返るUHLG野中選手と、高さNO.1のHLG木口選手が409秒の同タイムで3位、2人ともマックスに11秒及ばずは悔しいはずである。事務局で忙しい早投げの吉田選手は6マックス出していたの404秒の5位と、これもわずかの差はも女神のよそ見か。

6位は同じ野球投げながら年の差のある井村、菅野両選手2人の392秒は1投平均56秒である。何でも飛ぶ大宮たんぼはすごい所である。8位はこれも肩のイイ、しかし優しい寺田選手の390秒、関西弁を習うと強くなるかも…。9位は練習の虫(ムシされるな)・三田選手の369秒、よほどUHLGが面白いらしい。10位は朝の雰囲気作りでいつも負ける平尾、379秒はヒコーキが不調。

以下は省略するが、乱れ投げの斉藤パパ、UHLGを束で持ってきた子連れの子連れの石井満選手、いつも遠慮気味の小川選手は夏型か。春山選手はこの日も不調で返りが決まらず、ひさしぶりに復活の梅津選手は自分の投げを確かめていた様子、これもめずらしく記録会に顔を出した久保選手は、昔の投げがもどってきたかも。いつも楽しそうに参加する三俣選手は欲が足りない。石井満氏の1人娘・明里ちゃんは自分の背丈ほどもあるデカイ機体を上手に投げるが、娘になると飛ぶよ。ピリの大八木選手はもう一度、商用電源の2000ボルトでしびれる必要があるようだ。

HLG記録 2月19日大宮たんぼ、曇り、気温9°C、北風0~2m 60秒MAX、10投中7投の合計

	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	F3	総計	
1	吉敷 潔	60	60	60	60	60	43	60	55	58	60	420					U
2	石山芳彦	60	43	60	60	43	37	60	60	60	60	420					
3	野中正治	60	60	60	58	60	60	60	60			420				485	U
3	木口雅之	40	60	60	44	60	57	60	60	60	52	417				417	
5	吉田利徳	60	32	60	60	60	41	47	60	60	57	417				417	
6	菅野俊行	28	60	60	60	52	60	60	55	60	46	415				415	
6	井村真三	58	60	60	59	60	56	60	43	44	35	413				413	
8	寺田浩明	41	60	60	59	54	60	38	60	29	60	413				413	
9	三田裕一	45	60	51	47	60	60	37	60	60	51	402				402	U
10	平尾寿康	49	45	49	60	60	60	44	52	60	60	401				401	U
11	斉藤パ	60	0	28	0	42	60	60	60	51	59	392				392	U
12	石井 満	49	45	49	60	60	60	44	52	60	60	401				401	U
13	小川 昇	60	0	28	0	42	60	60	60	51	59	392				392	
14	春山清夫	49	60	36	60	40	31	60	31	60	60	389				389	U
15	梅津	49	60	36	60	40	31	60	31	60	60	389				389	
16	久保 晃	45	45	41	48	60	37	43	60	60	60	378				378	
17	宮辺	52	52	59	44	10	44	10	60	48	58	373				373	U
18	三俣	41	50	38	41	40	33	60	60	32	36	330				330	
19	今関健一	13	23	17	23	4	20	9	23	200	14	320				320	
20	石井明里	13	23	17	23	4	20	9	23	200	14	320				320	U
21	大八木	51	43	39	55	25	24	6				243				243	

2月PLG記録会報告

佐藤・平尾……

久しぶりにベストコンディションに恵まれ、PLG始まって以来、5人のフライオフとなりました。フライオフを制したのは最近好調の石引さん(300+90+120)が優勝。2位は上位常連の河田さん(300+90+88)。3位はベテランの石井さん(300+90+78)。4位は練習熱心な小嶋さん、5位は地元の篠原さん。6位は無尾翼機を安定よく飛ばした勝山さん(260秒)は立派な成績でした。今回初参加の渡辺さんが加わり、参加者が10名となり大変盛り上がりしました。

天候は曇天ながら暖かく風もほぼ無く、まさに今冬初めてのヒコークイ日よりでした。はじめは集まりも悪く「良い天気なのに」と思っていると、しだいに人数も増えて終わってみると10名の競技は久しぶりです。各選手も好調だったようで、高速で見えないくらい上がっている機体もあって、大宮のPLGも一流のレベルです。

PLG記録 2月19日大宮たんぼ、曇り、気温9°C、北風0~2m 60秒MAX、10投中5投の合計

	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	F3	総計	
1	石引喜一	60	56	60	60	60	8	11	60			300	90	90	120	510	
2	河田 健	60	60	60	60	60	60					300	90			507	
3	石井英夫	60	48	60	44	60	45	60	41	57	55	297				297	
4	小嶋常男	28	60	38	29	44	33	60	40	50	56	270				270	
5	篠原嘉男	60	56	60	60	60	8	11	60			300	90	120		510	
6	勝山 彊	60	60	60	60	60	60					300	90	117		507	
7	倉田泰蔵	60	48	60	44	60	45	60	41	57	55	297				297	
8	粕谷悌三	28	60	38	29	44	33	60	40	50	56	270				270	
9	佐藤幸男	36	37	60	47	28	47	19	27	33	31	227				227	
10	渡辺浩一	36	37	60	47	28	47	19	27	33	31	227				227	

2006年3月記録会の結果(HLG / CLG)

3月HLG記録会報告

平尾……

3月記録会は東京選手会大会と相乗りで実施した。あいにくと関東一円を低気圧おおって、雨は朝あがるが風が出るとの予測で、当然ながら参加者は14名と少なかった。8時競技開始時には雨が上がり初め、風は5~7メートルだったが、時間が経つと共にしだいに強くなった。

この日は関西から園田選手、名古屋から伊東選手が遠距離参加しているのに、関東勢はやや寂しい。しかし、ランチャーズの実力者は集っているので良い勝負になった。競技の前半はあまり見ていないので思いつくままに……。何回も言うが、風が吹くと野球投げ断然有利である。

競技はランチャーズ方式で7/10投で実施。最近不調ながら春山選手が9回投げて、しぶとく追い上げて4マックスながら優勝。2位は風に有利な野球投げの井村選手がバラツキながらも323秒をたたき出して2位、1秒差で売り出し中の豪腕・木口選手が322秒で3位に入った。4位に安定している大型機振り投げの野中選手・314秒、伊東選手が5連続マックスと突っ走ったが、機体の損傷等で後半7,8ラウンドは0秒、7秒と急失速、実力出せず5位。風の日には回数を多く投げた方がどうしても有利になる。5投しか投げなかった関西の園田選手が290秒で6位、7位にチビッコ・池田真之介君が入ったのは立派、何か賞をあげたかった。

7/10投の勝負では多く投げた方が有利だが、回収の手間のかかり方で勝敗を分けたようだ。

全体に風に負けて投数が少ない。特に賞金のかかっていない選手は1,2回投げただけで早々とリタイヤした。これからは、風が吹いた時用に野球投げ機を1,2機持ってくる必要がある。

3月HLG記録 3月19日大宮たんぼ 晴 15度 南風5~10m/s 60秒MAX 7/10投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計	備考
1	春山	60	48	58	35	05	60	60	18	60		381			381	U
2	井村	60	48	39	29	60	60	27	20			323			323	
3	木口	37	42	50	54	45	60	0	34			322			322	
4	野中	47	20	51	42	60	60	34	14			314			314	U
5	伊東	60	80	60	60	60	0	07				307			307	U

6	園田	57	53	60	60	60						290			290	
7	池田真	39	31	14	20	02	42	26	51	45		254			254	J
8	吉田	27	05	34	50	35	18	16	60	18		246			246	
9	斉藤勝	36	47	60	39	46	16					244			244	U
10	石山	44	60	42								146			146	
11	梅津	05	24	05	14	34	19					101			101	
12	菅野	60										60			60	
13	三田	31	22									53			53	U
14	宮辺	35										35			35	U

注: Uは翼端投げ、Jはジュニアを示す

3月PLG記録会報告

河田、平尾・・・

篠原さんがフライオフで石井先生に勝って、今年初優勝です。2位は石井先生。3位は3マックスの河田・気流には勝てないか。4マックスの小嶋さんが4位、無尾翼機の勝山さんが4マックス、で残念ながら5位。内山さんは機体の調整不足で6位でした。(以上河田)

先週、風が強くて1周延ばしての記録会、しかし、天気予報がショボイので集まりはホドホド。しかし、今回は新人・渡辺さんと篠原さんのお孫さん2人が参加して花を添えてくれました。注目は、お孫さんの名前が万葉と優となっているので、どちらが女の子か解らなくなりましたが、これが美少女、いいね……。カワイイ……イイ。ジュニアの参加は大歓迎です。成績は195秒と154秒ですから立派なもの。続けて参加して欲しいものです。おじいちゃんのヒコーキが優秀だから大丈夫さ。このところ大宮田んぼに通い詰めていた渡辺さんが、とうとう、ランチャーズに入りました。おめでとうと言うべきか、はたまた……。初参加の成績は190秒ですから、これからが楽しみです。

さて、総合的見解ですが(大げさな)、しばらくぶりにPLGをじっくりと見学しました。皆さん、直線上昇でよく上がり、よく飛びます。大変ハイレベルの戦いで、恐れ入りました。石井先生も「イヤー、すごい、すごい」で言う事無し。又、勝山選手・無尾翼機の4マックスはナカナカ出ない記録です。

今回は、石井さんが瀬谷の仁木・ライトプレーン名人の寄贈の機体を18機持ってきてくれて、2機は賞品として、他は競売しました。あっという間に売れてランチャーズの資金となりました。感謝。このライトプレーン、桧の削りだしペラ付きですから、まさに掘り出し物。国際級のモサが、これを聞きつけて、走って買いに来たが買えない人多数。残念でした。又、頂いたカーボンパイプは国際級ジュニアをやっている人に2本ずつ配りました。残りは暫時、賞品なり販売なりしますのでよろしく。いろんな事をやってランチャーズは偉いよなー、と言っても人のフンドシで相撲をとる図ですが。この様な様々な人の善意のお陰で、ランチャーズも頑張れます。

3月PLG記録 3月26日大宮田んぼ 曇天 15度 南風0~3m/s 60秒MAX 5/10投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計	
1	篠原嘉男	60	60	60	52	43	53	58	60	60		300	86		386	
2	石井英	60	60	60	60	58	60					300	61		361	
3	河田	59	22	60	55	58	48	60	58	55	60	297			297	
4	小嶋	60	39	60	53	60	11	60	45	7	40	293			293	
5	勝山	31	17	41	33	60	60	60	60	41	45	285			285	無
6	内山	60	60	31	50	5	38	38	4	44	35	252			252	
7	篠原万葉	45	46	29	37	32	19	24	24	43	28	195			195	J
8	渡辺	36	23	38	29	22	39	48	6	18	13	190			190	
9	篠原優	20	27	2	30	17	17	40	23	22	37	157			157	J

注: Jはジュニアを示す。無は無尾翼機を示す

2006年寒中杯報告

…平尾

今年の冬は特に寒く大宮田んぼは - 5度、顔や手が痛い感じでした。それでも富士山が見えて風が出る予想の寒空に、朝早くから結構な人数が集まってソワソワ。8時の競技開始頃は3メートル程度の風で、まずはやる気でスタートした。しかし第1ラウンドの終わる9時頃から、しだいに風が強くなって様子見の選手が増えてきた。そのあと瞬間では10メートルの風が吹いて散らかる機体も出て、後は度胸の競技会となった。でも、寒い、さむい寒中杯大会も終わった、オワッた。

HLG・バルサ

この日は紙飛行機競技もありで、風があるので掛持ちの選手はバテたようだ。参加者は10名とやや寂しい。早朝は当然ながらサーマルは無く苦戦、しかし第1ラウンドは60秒マックスなので、大勢が決まらずそれなりに盛り上がった。後半は平均7メートルの風の状況では10投投げられるかどうか問題となった。一度飛ばすとなかなか帰ってこない選手もいて、当然ながらフライオフはなし。しかし、全体ではまずまずの成績でした。

風の日には風速を機速に加算出来るので断然野球投げが有利、しかし、機体の大きさで劣るので途中でハタかれて滑空では不利です。風の日への投げ方は、機体を少し傾けて手加減せずに低めに一杯投げるのがコツ。そうすれば風が速度を加算されて高度を稼げる。

今回、ひさしぶりに各選手の投げっぷりを観察したが、野球投げの高度は新進の木口選手が大将です。しかし、風があるとそれなりに技術が必要で、やや経験の多い菅野選手が2位、寺田選手が3位と若手が続いた。あれ、では優勝は……。

UHLGはさすがに風では苦戦。三田、斉藤勝、野中、大八木の各選手とも返りが決まらず滑空が安定しない。大型機は低空でねばるが、接地してからの機体の損傷も激しく修理に忙しい。しかし、さすがは春山選手、しぶとくねばってケッコウ立派な成績でトップに来た。

4位には昨年からの練習熱心な三田選手が1秒差で付けた。ソロソロ優勝してもらはないと……。5、6位はUHLGが頑張ってる野中、斉藤選手と続いた。最近声が出ていない池田選手が7位、ここでやっと、この日最高高度の木口選手が来て8位、高いのは良いのだが……。豪腕石山選手は紙との掛け持ちお疲れで9位、10位にジュニアの池田真之介選手、子供は身体が柔らかいので技術の吸収が早い。今回は風の予想で名古屋、関西からの参加者はゼロ、寂しいね。

HLG記録 60秒MAX、1、2投はラウンド制、8/10投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計	備考
1	春山	60	60	60	37	48	31	51	43			390			390	
2	菅野	37	44	34	57	47	60	58	40			377			377	
3	寺田	41	45	56	51	26	60	30	45			354			354	
4	三田	53	55	60	40	60	42	43				353			353	
5	野中	60	28	35	60	23	23	60	31			320			320	
6	斉藤勝	29	36	60	28	21	25	59	52			310			310	
7	池田	57	60	17	36	28	22	20	47			287			287	
8	木口	23	55	60	44	45	29					256			256	
9	石山	60	15	13	31	60	31					210			210	
10	池田真	03	24	29	32	39	55	05				187			187	
11	大八木	36	27	42	31	07	27					170			170	
14	平林助	34	32	22	11	19	04					122			122	

紙HLG

今回も4名のみ参加。今冬は寒いので参加者が増えるのは春過ぎからか。紙はバルサより翼面荷重が大きいので、風の中でよく上がるが、機速が早いので滑空してからが大変である。小旋回だとスパイラルっぽくなるし、ストンと落ちると機体の狂いも大きいようで、上昇パターンが決まらず苦心していた。それでも石山選手は298秒を出して優勝、2位には順当に吉田選手が付けて、以下平林兄弟となった。紙はむつかしい。

紙HLG 60秒MAX、1、2投はラウンド制、8/10投

	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計	F1	F2	合計
1	石山芳彦	20	31	40	48	28	30	60	60			326			
2	吉田利徳	24	34	39	30	31	28	51	56			294			
3	平林久幸	14	53	25	32	19	25	24	27			219			
4	平林久之助	03	22	23	60	10	06	02	60			186			

* F1G

このクラス、G専門の選手ははじめから様子見気分で盛り上がらない。風が吹くと特にハイテク機は元気がない。一方、ノメカ(と言っても可変ピッチ)の勝山選手はチャンス到来と、ショートスパン方形翼のバルサをイソイソと飛ばしている。考え方の差と言えばそれまでだが強風用の石のように重い丈夫な、スパン100センチクラスのハイテク機を一台は持っていたいもの。もっとも、7メートルの風の中、飛ばすようなヒコーキではないけれど…。

成績は、今回も経験が無く恐れを知らない、グライダーから逃げ出した三留選手が乱れながらも優勝、2位は静かに海老原機選手が来た。3位は狙い通り勝山選手と、ゴムになるとバルサ機も頑張っている。4位にGのプロ・渡辺選手・サーマルセンサーが使えたかどうか。5位はウエークまがいの大型機使いの島崎選手・2回以降は散らかった様に思うが…。宇田川選手が1回飛ばして没、以下の選手は棄権となった。

F1G 1ラウンド3分、2ラウンド以降は2分マックス

No.	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	Fo1	Fo2	合計	順位
1	三留益良男	81	103	86	74				344	1
2	海老原 清	103	81	81	77				341	2
3	勝山 彊	89	90	61	77				317	3
4	渡辺 了敏	43	39	39	35				156	4
5	嶋崎 和利	87	0						87	5
6	宇田川俊夫	61	0						87	6
7	中野 紀									
8	松尾 哲郎									
9	坂巻 敏雄									
10	大桃 隆									

* F1H

風が出る予報のせい参加者は7名と少ない。風になるとカーボン機が有利なのは当然で、今冬は特に調子の良い吉岡選手は4回まで頑張っ様子見。しかし、もう1回飛ばさないと優勝にならない合計タイム。最終回風の強い中「イケイケ」と無責任な声に励まされて先生は離脱、且つ機体の優秀性もものをいって優勝。

「カーボン機が勝つ? しかし、それは違よ、バルサ機も大丈夫」と石井英夫選手がデッパって、機体がイイのと日頃の練習とおしゃべりとが効いて2位、まだまだ10年はイイネ。湘南の熊井選手は4ラウンド飛びすぎて帰ってこない。それでも3マックスが効いて3位は立派。櫛引選手が一発離脱で今回もイイところまで来たが、もうチョイの4位。しかし、1発勝負は年寄り向きだよなー。和田選手は寒すぎて機体のセットが出来ないとブツブツ、本当は機体が消耗して1機しかないせいらしいが、今回ははじめからあきらめムードで1ラウンドで終わり。

横浜の吉田選手は風を見て結局飛ばさなかった。平尾は1ラウンド、揚げたものの離脱が優柔不断で、突っ込んで左翼大破、競技は心がまえですね。しかし、これで少し吹っ切たかな。もう少しタクサンの人がF1Hを買うなり、作るなりして欲しいな…。ちなみに、不参加ながら関東で機体を持っている選手は岩田、井沢、相沢、大矢、山本、岸田、宮辺の各氏等々、全部が参加すれば15名は居て面白いのだが。残念ながら、今回も関

西からの参加は無かった。

F1H 1ラウンド3分、2ラウンド以降は2分マックス

No.	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	Fo1	Fo2	合計	順位
1	吉岡靖夫	120	120	58	120	120			538	1
2	石井英夫	97	102	43	111	120			473	2
3	熊井恒雄	120	120	120	82				462	4
4	櫛引敬司	47	70	111	36	120			384	4
5	和田光信	53							53	5
6	平尾寿康	7							7	7
7	吉田勝海									

* F1J

エンジンは2名のみ参加で、チョッとさみしい。この日は壊した人は無かったが、高度が取れるだけあって遠くに飛んで回収が大変で2回で勝負が付いて終わりました。エンジンばかりでなくゴムやグライダーまで田んぼを飛び出して、結構な数の機体が隣のグラウンドに降りて、ヒンシュクをかっていたらしい。反省…

F1J 1ラウンド3分、2ラウンド以降は2分マックス

No.	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	Fo1	Fo2	合計	順位
1	江連 明夫	120	120						240	1
2	金川 茂	120	118						238	2

2006年きしめん大会・HLG

…平尾

今回の大会は四日市のホテルがナカナカ取れず焦った。聞いてみると東芝の工場が増設中で、来年までホテルの空きは少ないらしい。しかしまだまだ産業都市・四日市は苦戦中で、中心部も空き地が目立ち閑散としている。インフレは賛成だろうし、トヨタ空港もオープンしたし頑張っ欲しい。

今年のきしめん大会は好天に恵まれ、存分に飛ばせた。エンジン、小型混合級とHLGの競技会なので、参加者は少なめで30名程度。風向きもアチコチで一定せず、風もなかったのでヒコーキの落下地点は近所廻りで済み効率的。今回もハンドランチ以外は見ていないので、濃い(故意)偏見によるHLG報告とします。

来週に関西FF大会開催なので、HLGも6人のみとやや寂しい。競技開始時には盛り上がり欠けてたが、しだいに発情してきて最後は熱烈的競技でした。9時から競技開始、終わりは11時半のシキリ。この日の気流読みは難しく、空気が冷や冷やしているわりにサーマルがあったりしてサッパリ解らず。競技の時は四苦八苦だったが、終わって解ったのは地上から15メートルぐらいが海風、その上は陸風の2段構成だったようだ。この様な時は地上近くの温度計はダメ、10メートルぐらいのストリーマーが有効のようです。経過は5人中3人がフライオフに残り、1回目の90秒は3人ともクリアー、F2ラウンド2分で伊東選手の機体がなぜか電線に接触して脱落、最後は残った二人が2分マックスで同時発航とし、やっと決着しました。見事な飛ばしっぷりでした。

地元・哲人伊東選手は出だし好調、しかし、今一乗れずフライオフには残ったが、2ラウンド目でUHLGが電線と電柱に接触という難しい事をやってのけて3位。

園田選手は練習で投げるたびにヒコーキを壊して、大型機3機が全滅。翼の付け根が瞬間ではモタンモタン。あきらめムードでしたが春山式小型機1機が車にある事を思い出して走り取りに行き、飛ばしてみるとこれが調子よく、持ち前の腕力と根性で押っつけおっつけ何と2位。小柄な身体で、年甲斐もなくよく上がる。

優勝は昨年日本選手権・F1Aグライダー3位の生駒選手。昨年からの好調を引きずってきたようで、ストリーマーの読みが当たりフライオフ進出、野球投げの高度もマズマズ、その後も当たりっぱなしで優勝。今年は生駒年か。

小笠原選手はぶつぶつ言いながら、UHLGで徐々に調子を上げたが間に合わず5位。翼弦8センチをせめて10センチにすると飛びも楽になると思うが。

地元・掛山選手は朝1発投げて肩がギク……。即リタイヤとなったが、整骨院に行ったり肩の体操をすれば大丈夫

夫。HLGの定年は80才なので、残りの人生は長いぞ。

平尾はムード盛上げ係としては成功したが何か変で、機体が返ってからデサショートはするわ、スカスカと降りるばかりでアカンアカン。しかし、成績を見ると290秒なので、このあたりが実力かも。

中部の大会には、もう少し関西からもっとワンワンと参加せにゃ……。このままではランチャーズにかなわんぞ！！！！

HLG 級結果 06年3月5日、鈴鹿田んぼ、気温10度、快晴微風、風向定まらず

氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	FO1	FO2	FO3	合計	順位
生駒大造	*60	52	26	45	*60	*60	*60	57	*60		90	120	50	560	1
園田宏樹	35	*60	57	33	45	36	*60	*60	*60	*60	90	120	42	552	2
伊藤哲男	*60	47	*60	51	*60	50	37	*60	*60		90	82		472	3
平尾寿康	*53	40	*60	44	*57	47	*60	*60	36	42				290	4
小笠原憲夫	41	39	35	*43	13	34	*58	*60	*60	*60				281	5

お知らせ

2006年1月1日発効のフリーフライト規定の主な変更点

FF国際級F1ABCの競技規定が一部変わりました。注目の第1ラウンドのスーパーマックスが無くなって、3.5分と4分マックスになってスッキリした。今年からこの規定に準拠して競技が行われます。

3.1 クラスF1A グライダー

3.1.2 グライダーF1Aの規格 (F1Bも同じ趣旨)

F1Aモデルは飛行を制限する非可逆的動作、すなわちデサマライザー動作の目的にのみラジオコントロールを使用することができる。ただし、これらの機能のいかなる誤動作あるいは予期しない操作は全て競技者の責任となる。

3.1.7. 最大滞空時間

世界選手権および大陸選手権における公式飛行の最大滞空時間は第1ラウンドでは3分30秒、その後続くラウンドでは3分である。他の国際競技会では、特定のラウンドについて競技要項に前もって異なった最大滞空時間(4分を超えないこと)が公表されない限り全ラウンドの最大滞空時間は3分である。

最大継続時間が3分以上のラウンドにおける3分を越えた時間はタイを解消する場合にのみ用いる。(F1B、F1Cも同じく削除)

最大継続時間が3分以上のラウンドは風と上昇気流の活動が最小であると予測される時間にのみ行われるべきである。

3.2. クラスF1B 伸縮性モーター付きモデル

3.2.7. 最大滞空時間 (F1Cも同じ)

世界選手権および大陸選手権における公式飛行の最大滞空時間は第1ラウンドでは4分、その後続くラウンドでは3分である。他の国際競技会では、特定のラウンドについて競技要項に前もって異なった最大滞空時間(5分を超えないこと)が公表されない限り全ラウンドの最大滞空時間は3分である。

3.3. クラスF1C ピストンモーター付きモデル

3.3.2. ピストン式モーター付きモデルF1Cの規格

燃料処方方は次の通りである。

メタノール 80% ひまし油または合成油 20%

フリーフライト国内級競技規定の一部改定

ライトプレーンとHLGの規定が一部変わりました。HLGが2つの大きさに区別されて、よりフェアな競技になりました。又、紙HLGがどこまで、のしてくるか。

表1. フリーフライト国内級規格

2006.2.1改定

種目	機体	飛行	動力等機数
LP級 ゴム動力機	全長500mm以下 ゴムは露出していること	5回 最大飛行時間1分	3機
R級 ゴム動力機	大きさ制限なし 被覆胴体でゴムを含めない 機体重量90g以上	5回 最大飛行時間2分	動力ゴムの重量15g以下 3 機
E級 ガスフリー機	大きさ重量に制限なし	5回 最大飛行時間2分	エンジン気筒容積1ml以下 3 機
G級 曳航グライダー	重量に制限なし 翼幅1500mm以下	5回 最大飛行時間2分	曳航索2kg加重で50m以下 3 機
HLG-A級 手投げグライダー	大きさに制限なし翼幅 160mm以上900mm未満 機体重量80g未満	1049回 最大飛行時間1分	5機 最良飛行記録5回の合計 5機
HLG-B級 手投げグライダー	大きさに制限なし翼幅 160mm以上450mm未満 機体重量80g未満		

第8回平城京ライトプレーン競技大会案内

- 日時 6月4日(日)午前8時受付、9時競技開始、午後2時終了
- 会場 平城宮跡緑地広場、第一次大極殿跡付近。駐車場トイレ休憩所売店あり、近鉄西大寺駅下車東へ1km、平城宮跡資料館入口(駐車場あり)から500mほど東南へ入る。
- 種目 ライトプレーンの部(ゴム重量5g未満)
ミニクーペ&小型混合級(ゴム重量5g未満)
HLG(手投げグライダー)
CLG(パチンコ発射グライダー)
- 競技 ライトプレーンは9時~11時30分の間に60秒MAXで5回飛行
HLG、CLGは9時~11時30分の間に60秒MAXで5/10
- 決勝 ライトプレーンは参加多数が予想されますので下記の予定です。
11:45~12:00まで2分MAX。満点は次に進む。
12:30~12:45まで3分MAX。満点複数なら再度。
- 規定 ライトプレーンはJMA国内級規定にもとづきますが、JMA規定15条に抛り、今大会独自の特別規定を付加します。
いわゆる「平城級」ルールから大幅に変更です。十分にご注意願います。
機体数は3機まで。受付で確認します。個別識別記号を記入のこと。
競技の方法は、JMA規定にもとづきますが、状況によりミーティングで協議。
機体のJMA規定:全長50cmまで(DTヒューズ以外全て含む)、ゴムは露出
- 付加する本大会の特別規定:
ゴム重量は5g未満、折畳ペラ禁止、翼面は片面張り(スチレン可)。
CLG CLGのパチンコ発射装置:ゴムはFAIラバー1/8を1mまで。スティック長さは15cmまで。
- 参加申込等 当日受付、参加費500円(少年無料)参加者、同伴者のご協力で運営します。
- 注意 ゴミ箱はありません。各自で持帰り。競技スポットは禁煙
大極殿復元工事現場に落下した場合は正面ゲートの警備員に相談の事

近鉄線路の踏切以外の横断禁止。配置する安全指導員の指示に従う。
風向等で競技の中断を指示されたら直ちにすべての飛行を停止する。
埋蔵文化財の保護の為にパラソルなどの打ち込みは禁止。

- 10. 大会役員 大会委員長岩村慧一(KFC顧問)、
大会競技委員長高田富造(KFC会長代行)
- 11. 競技委員 今村利勝、岸田和義、金丸英一、宮本茂樹、村上善信
- 12. 主管団体 京都フリーフライトクラブ

モンゴル2006年・模型航空フリーフライト国際級競技大会

- 1. 日時:平成 18 年 8 月 11 - 8 月 18 日(大阪関空を利用の場合)
平成 18 年 8 月 12 - 8 月 19 日(東京成田空港利用の場合)

日程: 2006.8.11(金) ウランバータル到着(大阪関空)
2006.8.12(土) ウランバータル到着(東京成田空港)
練習(大阪)
2006.8.13(日) 練習、受付、開会式
2006.8.14(月) F1G、F1H、F1J
2006.8.15(火) F1A
2006.8.16(水) F1B、F1C
2006.8.17(木) 予備日(賞金大会)
2006.8.18(金) ウランバータル出発(大阪関空)
練習(東京)
2006.8.19(土) ウランバータル出発(東京成田空港)
(16 日(水)の大会後フリーマーケットを開催します。)

- 2. 場所: モンゴルウランバータル市 ブルハンチンフンチ競技場

- 3. 競技種目: F1A、F1B、F1C、F1G、F1H、F1J、HLG

- 4. 競技方法: 競技は FAI スポーツ規定に準拠した公式飛行と決勝飛行を行い、順位を決定する。

種目別の賞・金銀銅メダル、優勝したチームに賞杯を用意します。気象その他の状況により競技会委員会の判断で全飛行を行わない場合がある。飛行機の故障、紛失などは 当該選手が
損務を負担する。参加選手や飛行機に保険をかけない。

- 5. 大会参加費: 50\$

- 6. 宿泊先: 競技場近くの Gobimon ツーリストキャンプ場(空港から約 45 分)、遊牧民伝統のゲルキャン プ
(3 人、4 人部屋) 食堂、トイレ、シャワー(洋風)は別館

- 7. 申込期限: 2006 年 6 月 1 日まで

- 8. その他・ 飛行機の回収に車を用意します。・F1C のバッテリー、燃料をモンゴル側で手配します。

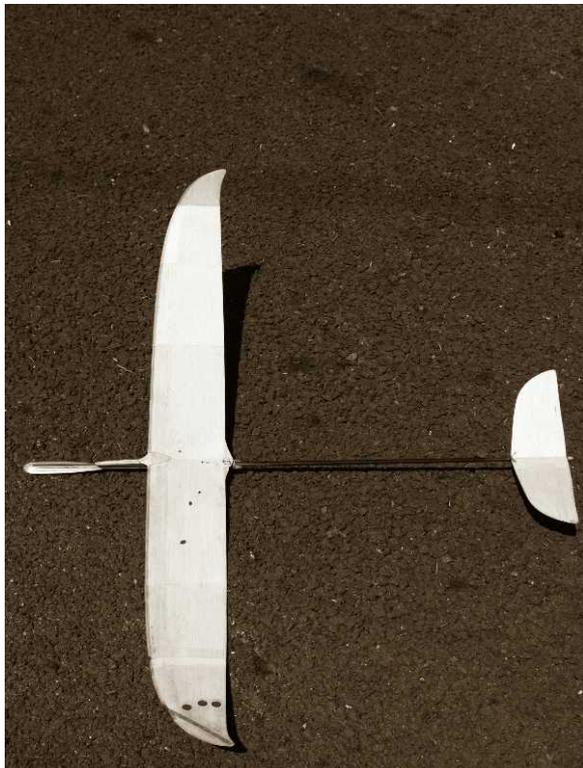
大会期間中の宿泊、移動バス、車などをモンゴル側で手配します、ただし代金は選手各自負担とします。(ホテル、食事、現地移動、通訳その他で選手は 1 人 500 \$、同伴者も 同様)このほかに航空券、VISA 申請など 12 万円程度の費用がかかります。

日本の FF 愛好者の沢山の参加を希望しております。ご意見などご遠慮なく下記へお寄せください。
CHIMED GANZORIG(チミデ ガンゾリグ)電話番号 042-796-4498 e-mail c.ganzorig@yahoo.co.jp

吉敷式・優勝機「春 Spring SAL」の紹介

……平尾

UHLGもすっかり定着して珍しくも無くなったが、まだまだ情報交換は必要です。各選手ともヒコーキは素早く作るのに図面は書いてくれないので困ります。



そこで今回は吉敷さんから機体を借り(召上げて)て図面化した。諸元は、スパン約800ミリ、最大翼弦96ミリ、翼厚6.8%と厚翼で、前縁の削上げも強く(2mm)、且つフラップ翼(翼の凹み1mm)である。胴長700ミリ、機体重量66.4グラム。主翼は曲線翼で左右の長さが異なり、上反角も左右で違うので多少の誤差はあるとして翼面積は6.7dm²、アスペクトレシオ9.5とロングスパン機である。翼面荷重は9.9グラム/dm²で取得高度と滑空のバランスを考えると良いところに設定している。この諸元からこの機体の性能を石井満グラフで読むと発航速度32m/秒と下場合、取得高度26.5m、沈下率4.45cm/秒となって滞空時間は62.5秒(上昇時間3秒)となり、ナカナカに優れた機体である。上反は左3段、右2段とチンパで、ラダーありのV尾翼機です。胴体はほぼカーボンパイプのみで、その分抵抗は少ない。翼端投げで左旋回しながら上昇し、キレイに返る。力のかかる左翼が少し長く、且つ、カーボン、航空ベニアと紙張りで補強がしてあるので、右翼より3グラム程度重くなっている。その分右滑空旋回がしにくくなるので、ラダーを多めに効かせる必要がある。又、螺旋スパイラルを防ぐ意味で翼端に捻り上げを

付けている。多分、フラットに旋回するので旋回時の沈下は少ない筈である。実物は別に変に思わなかったが、図面を書いてみると「空飛ぶ恐竜」の感じで、この曲線の意味は良くは解らない(好き好きさ??)。さて、これを作るとなるとそこら中チンパだし、ウオッシュインを付けていて、考えながら作るしかないだろう。これは一種の名人芸で出来ているヒコーキと考えるのが良さそうだ。図面別添

公園用500円HLGの勧め

……平尾

公園での安全確保のために、パークプレーンとして300円ハンドランチ(機体重量14グラム以下)を提案して20年近くになりますが、実際には小さすぎて投げにくく、かえって高度が取れません。最近公園で盛んになった紙飛行機も工作技術が向上して以前より大型化して、実によく上がるし飛びます。その原因の一つは見かけと違ってバルサ機よりずっと重いのです。又、ぱっと見には木より紙の方が弱そうですが、紙の方が丈夫だし当たった場合は重い方が痛いのは当然です。本気で危険回避を考えるのであれば、紙だから安全、木だから危険という事ではなく、他のグループ(紙のクラブ等)ともども参加して貰って、検討をして欲しいところです。

で何を言いたいのか? 簡単です。公園でもっと飛ぶ手投げヒコーキを飛ばしたいのです。現在の制限重量300円(14グラム)から500円(24グラム)にするとスパン40センチ弱のクラスが飛ばせて、相当に満足出来ると思います。この場合スパンも40センチ以下に制限したいと思っています。たいへん唐突な「500円ハンドランチ」の提案です。

設計と製作(図面別添)

試みに展開スパン400ミリ、翼弦80ミリ、胴長430ミリの機体を作ってみました。出来た機体は主翼面積2.8dm²、完成重量21グラム、翼面荷重7.5グラムとなって提案の新企画に合格です。今回はデサは重リストンにしましたが、木に引っ掛かった場合、回収には不向きです。本気で公園で飛ばすことを考えると主翼ホップアップ式が推薦です。又、今回は主翼下面はフラットにし、ストレス解消のためにとにかく高度を稼ぐように考えまし

た。この大きさですと全て瞬間接着剤での工作ではやや不安で、主翼のジョイントと胴体への取付はエポキシがよいでしょう。その他はジョイントは瞬間接着でOKです。

飛ばしてみました

ナカナカ快適です。力の入れ甲斐があって、スナップ投げでグンと高度を取ります。しかし、年のせいもあって高度は17、8メートルといったところで、30秒飛ばせば良い方です。しかし、飛ばす公園の広さには適当で、小型のわりに滑空性能も良くデサは必須です。

競技ルールは

さて、この企画での競技ルールは？ マックスタイムは長くは出来ないのので40秒マックスの6、又は7投の合計タイムと言うのは如何でしょうか。図面別添

無尾翼型羽ばたき機の作り方と調整法

……平尾

前説

前回述べたように公園デビューをはたしたものの、せまい公園で楽しめるヒコーキ作りで四苦八苦している。いくつか試した中で意外性があって、手間はかかるが美しい公園にふさわしい、且つ、大人子供共に注目を集めるヒコーキとなると「羽ばたき機」がNO.1である。

ところが、いざ作って上手く飛ばせばよいが、そうでない場合どう調整したらよいのかハタと困ってしまう。翼によって揚力？と推進力を得ているので、どこをどういじれば良いのか見当がつかないのである。NHK出版の野中さんの本やインターネットの羽ばたき機の専門家のページを調べても、調整については納得できない点が多い。羽ばたき機の調整法を理論的に追求した人がいないか、又は、複数の調整要素が絡んでやたらと複雑なのかと思う。そこで、私なりに作り方と調整法を中心にまとめてみた。

1. 設計図

まずは、どの様な羽ばたき機を作るかが重要である。初心者には、作り易さと飛び易さが重要であるからだ。なぜなら、複雑な機体を作って飛ばなければ、その努力が全く空しいからである。そこで今回は、作り方が簡単でやさしい「無尾翼型羽ばたき機」を紹介して、これをモデルとして作り方と調整法を述べたいと思う。この設計図はインターネットに載っていた物をもとに、何点か設計を改良(変更)をしたものである。正直言ってオリジナルのママでは飛ばなかったのである。

改良点は 尾翼部分を大きくした。胴体部分の後部の支柱をV字型にした。全体にやや大きくした。動力伝達クランクアームをバルサにした。の4点である。

改良の理由は、尾翼面積を50%程大きくしないと不安定で飛ばなかった。は後部支柱をV字型にすることによって、胴体部分がゴムトルクで曲がらなくした。は強度に余裕があるので、翼をやや大きくして翼面荷重を減らした。はクランクをピアノ線の曲げ加工で作るとヒンジ間の長が正確に作りにくい、バルサ棒だと簡単に出来る等々である。

2. 作り方の問題点

クランク部分

最も難しいのは羽ばたき機構の部分である。これまでの製作記事では、動力ゴムのクランク部分のエネルギーを羽ばたき機構に伝える部分が、この模型の全てを握っているのに、クランクの回転半径やその比についての説明や記述がほとんどない。例えば今回設計の場合、ゴムクランクの回転半径は9ミリ以下にすることが重要事項である。ゴム巻きクランクの半径が大きすぎると羽ばたきヒンジが逆にはいる事がある。ここが狂うと羽ばたきのクランク部分の回転半径20ミリとの比も狂うので、スムーズに回らないし、テコの原理による応力比が影響を受けパワーが減少する。ここでパワーが $20 / 9 = 2.2$ 倍に増幅されるのでエネルギー伝達率が変わってくるのである。

飛ばしてみると良く解るが、羽ばたき機はエネルギー効率是非常に良い様に思える。プロペラ機では考えられないが、わずか150回巻きのゴムでおおよそ30秒の動力飛行が可能である。ここでの私の工夫はクランクロッドをハードバルサ2ミリの角材にし、簡単に作れて交換もしやすくした。クランクは短すぎても長すぎても駄目なので、製作時にロッド長を微妙に変えた材を2、3種類作って実際に動かしてみて調整する事を勧める。

胴体部分

羽ばたき機では胴体の正確さが大変重要である。この部分でゴム動力を支えるので、わずかな歪みが飛行に影響する事が解った。失敗例のほとんどは弱パワーにはそこそこ飛ぶが、発航時の強パワーに胴体がよじれて右スパイラルになって上昇しないケースがままある。その原因は胴体が強いトルクに負けて翼部分が右に傾くからである。そこで今回の設計では後部の支柱をV型にして歪みを排除した。全体が出来上がったら丈夫さと汚れにくさの為に、2回ほどクリアドープを塗る事を勧める。

紙張り

昔は天具帳やがんび紙を貼っていたが、経年変化でボロボロになるので、カラーフィルム(イギリスのエアースパン等)を透明なゴム糊を使って貼っている。多少重くなるが、色は鮮やかで綺麗なのがよい。図面別添

3. 飛行と調整

処女作の羽ばたき機は重かったが、上向きに投げると急角度で30メートル程上昇した。しかし、滑空は惨めなほど悪かった。この急上昇タイプは、その後2度と成功していない。あとで作った機体は、いずれも穏やかな旋回上昇で30秒程度は飛ぶ。あまり上がると無くなる恐れがあるので、軽量化にはムリをしていない。失敗例は発航すると同時に右旋回スパイラルになって、地面をのたうちまわる現象がままある。この場合に、様々に考えて対策をテストした結果を以下にまとめた。

検討項目	調整内容	効果の有無
重心位置の移動	重りを積んで重心位置を前進させる	ほぼダメ
翼面積を変える	ハサミで翼を切って旋回外側面積を減らす	全々ダメ
水平尾翼の向角	向角を調整する(下げる)	ほぼ有効
水平尾翼の傾き	旋回方向の反対方法に傾ける	やや有効
胴体部分の軸角変更	主翼の動作を確認して動角軸に合わせる	有効

重心位置

重心位置を前に持ってくると良いとあったので、鉛を積んで試したが上手くいかなかった。

旋回内側の主翼面積を大きくする。

始めから翼を大きめに作って、旋回外側の翼をハサミでドンドン切ってみたがダメ

水平尾翼の向角を減らす。

これはプロペラの場合の頭上げすぎの失速に相当するので、向角を減らすと有効なはずであるが、軽いスパイラルでは有効であった。但し、旋回が極端な場合には効かなかった。

水平尾翼の傾きを左右に変化させる。

旋回方向の逆に傾ける。少し効くが万全ではない。

胴体の垂直方向の傾きをいじる。

真中に水平な翼部分がある場合、ここをイジルと極めて有効。完成時にチェックをし胴体縦軸と主翼の動角の左右バランスをみて左右羽ばたき角のセンターに調整する。但し、尾翼が付いてる機体では今一つ自信がないが……。

雑談天国

ヒコーキ用の旅装について

最近泊まりがけで出かけるのは、ほとんどヒコーキがらみである。その場合の旅装であるが、夏冬の季節によって相当に違って来る。以下参考までに。

1. 靴

普段は飛ばす所が田んぼなので、まず足元が問題である。最近では自動車で動くのがおっくうになって電車で行くことが多い。その場合は雨靴をどうするかが最大の悩みである。持っていか履いていかかしかないのだが、長靴で新幹線に乗るのは勇気がいるし、魚やさんと間違えられたくないしな…。夏は軽装でよいが、冬の場合は寒さ対策が1番で当然ながらゴツツイ靴になる。

最近、運良く靴屋の閉店セールで外国製の「カップ」という鴨猟に使う靴を見付けた。正規で買うとすごく高いのだが、何と2000円弱で売っていた。その時は他に出来る途中だったので、こんな物、買うヤツがいるまいとたかをくくって帰りに寄った。案の定まだあったので店の親父「こんな靴誰が買うの」と聞くと「お百姓さんが買っていった」という。「フーン」である。なるほどと納得すると同時にこの靴の性能に信頼がおけた。一見普通の短靴だが、ほとんどが一枚物の樹脂で出来ていて、防水性は無論、ドロドロになっても洗えるのである。先日名古屋のズフズの田んぼに履いて行ってトイレの手洗いで靴をジャブジャブ洗ったが全く問題がなかった。

夏は涼しいスケスケの靴を履きたいのだが、早朝は草が露で濡れているので中までビチャビチャになる。かといってしっかりした靴は、暑くて汗でビチャビチャになる。結婚式場などでくれるビニール製の靴カバーの利用も考えたが、すぐ破れてしまうだろう。結局は濡れるのを覚悟でスケスケ靴にして、ビチャビチャになった場合は帰りの電車の中で靴を脱いで乾す事にしている。

2. 椅子

年寄りになると椅子は必須である。登山屋で携帯用の椅子を調べると幾つかある。しかし、軽くて持ち運びに便利な物となると2種類しかなかった。アルミ製で重量は500グラムと軽いのが、1つは1万円に近かったのがヤメ、もう1つは長さが50センチのアルミパイプ製で3脚式で6センチ程度におさまり、2千円弱だったので購入した。リュックの外に縦に縛るとぐわいがよく収まる。これは満員電車でも使えるので便利である。他の品でも良いがヒンジがチャッチイのは止めた方がよい。その他では空気を入れると膨らむ座布団もあった。

3. バック

荷物が多いのでリュックは必須である。競技会でゴソゴソ探す手間がかかると、競技に勝てないのでポケットの多いものが便利である。着替え、カップ、色メガネ、薬サプリメント、ホカロン、コップ(ビール用)、本等が別々に収納出来て軽いのが望ましい。

4. 自作携帯用ウォッシュレット

最近ではホテルのトイレにウォッシュレットが付いている事が多いが、まだ無い所もあるので自家製のウォッシュレットを持っていく。電池式の携帯用ウォッシュレットを売っているが高い(1万円?)し重いし容量が小さい。そこで考えて、エンジン機用の燃料ポンプ(ラジコン屋で500円)を使う事にした。燃料の吹出し口の曲がりぐわいを少しいじればOKである。この製品はかれこれ10年ほど使っているが、実に便利?である。雉打ちでも使える。お試しアレ。但し、作り方を載せるのは気がひける。

5. 回収用の足

重い物は電車では運べないと思っていたので、ほとんどはテクリだった。しかし、どうもそうではないらしい。かの有名な山崎興氏の発想は人間離れしている。もともと遊ぶ機械みたいのだが、今月の「ラジコン技術」のレポートには感心しました。何を…?

何と42キロのポケットバイク・モトコンポをバラしてスーツケースに入れてヨーロッパに運んだのである。脱帽しました。これでヨーロッパの4試合を転戦しているのだから、すごい。

ここで私も考えた。国内であれば折りたたみ自転車を持って行ける。リュックとガン箱、それとカートに積んだ折りたたみ自転車。いいぞ! しかし、ここで終わっては興(あたい)ちゃんに負ける。

ディブラッシュ



そこでさらに考えました。モトコンポは勘弁して貰って、イタリアの折りたたみバイク「ディ・ブラッシュ」であれば、30キロで大きさも85センチとモトコンポよりは小さいし、カッコ良くても携帯用のバックまで揃っている。しかし、25万円は高いか安い。ぜ

ひ、自動車に積んでおきたいバイクである。

次は模型屋がインターネットで売っている折りたたみエンジンスクーターがある。名古屋の怪物・伊東氏が乗っている物で自重17キロ、ハンドルとサドルがたたためて、時速25キロまで、片手で持てる大きさになる。エンジンは0.6馬力、遠心クラッチ、1リッタータンク、燃費45キロ/Lなので予備燃料タンクは必要である。但し、このままでは公式には路上は走れないので、道路でない所を走る工夫がいる。価格は何と18,500円と馬鹿みたいに安い。そこで1台取り寄せてみた。福岡の模型屋が扱っていて、品薄で注文してから2週間ほどかかって送料+税金込みで22,060円(佐川急便の着払い)で手元に来た。中国製で荷姿は120センチ×40センチ×50センチの段ボール箱入り(この段ボール釘が打てるほど固い)で、本体、部品、道具と組立図が簡単な梱包で入っていた。このまでは、道路を走れないのが玉に瑕だが陸運局に相談して、バックミラー、方向指示器等を付けてナンバーが貰えるのであれば、やった方がよい。但し、車輪が215 と小さいので野原を走るのはムリと思う。(検索はRS BOX・アールエスジャパンでやる)

余談だが、最近特定の物はインターネットで物を買う様になった。まず安い。今回は福岡だが、この間買った1眼レフは富山から来た。支払いは、私の場合は全て「代引き」(宅配屋が品物と代金を交換する方法)であるので、だまされる心配はないし、ほとんどが返品に応ずる。電気製品も秋葉より1、2割は安いので、何か欲しい時はまずはネット検索をする事。

次案は、折りたたみ電気自転車を買う。ホンダ製は格好良いが重い。軽いのは22キロ程度で4万円弱である(これもネット)。

エンジンスクーター

しかしこうなると10年来考えていた「折りたたみ自転車にエンジンを付ける」を実行にうつさねば。草刈りエンジン利用の場合は動力の取り出しが難しいが、エンジンチェーンソーなら元々歯車が付いているので使いやすそう。自転車のチェーンに歯車を噛ませて駆動する事が出来るだろう。その場合はギアチェンジ式折りたたみ自転車を利用すれば、ペダルと一緒に回る事は避けられそう。他の案は前記のエンジンスクーターのエンジン部分を外して自転車に積むとどうか。何故そんな事をするか、がっちりした20インチのワッパだと野原も走れるのでは……。考えるのはイイとしても、いつ頃この製作記事が載せられるか…、成功したら製作記事を載せるので、乞うご期待



編集後記

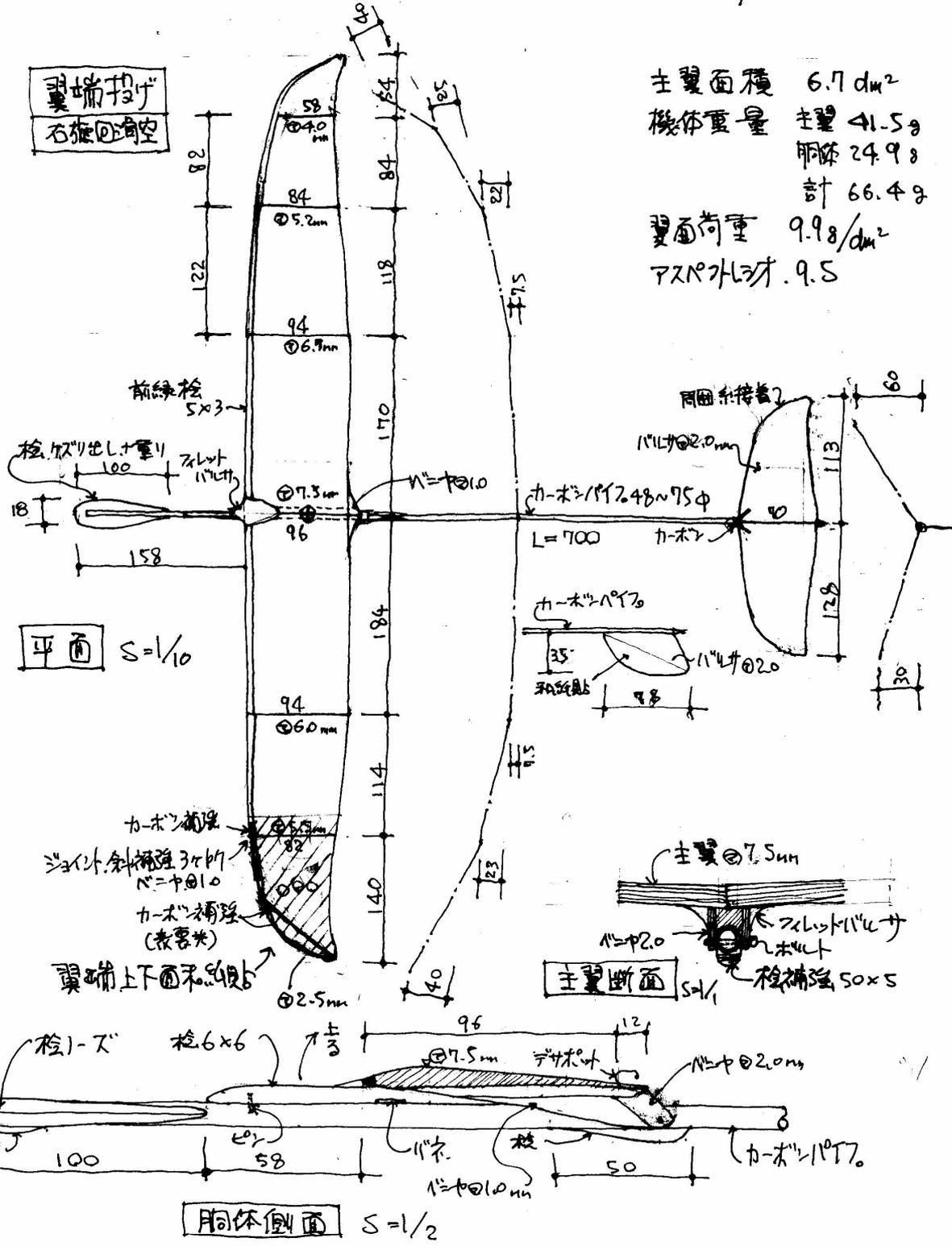
今年はFF世界選はないが、FAI規定、国内機規定の改定や競技場所の変更があって、例年よりも変化がある。また、加齢と共にヒコーキやモグライダーやゴムやになつたりする人がポチポチいて、戦う相手が変わる事は、ぼけてきた頭には負担である。しかし、大体はこれまでやってきた事の繰り返しなので、マンネリにならないようにしたい。まずは、私より年上が減少しない事を切に願っている。大宮に行って、ある時から「あんたが最長老」等とは決して言われたくないものだ。

しかし、ここ半年で仲間が3名も亡くなった。悲しい、寂しい事である。武田敏氏、木引敬一氏と上原森三氏である。皆さんチョット早いぞ…と言いたい年齢であり、この内2人は私より若いのだから、やりきれない。日本にやがて来る高齢化社会と言われているが、模型ヒコーキ界ではすでに高齢化を先取りして粛々と進行中である。若返りを急がないとFF界が壊滅しては困る。最近の若手(50才を言う)はナサケが無さ過ぎると思うが如何。そこで模型ヒコーキ界に活を入れる為に、頑張っている年寄りに何回か勝たして(日本選手権でいいから)貰いたいものである。

78年から続けている会報もいずれ大改革をしたと思っている。25年もやっている面倒くさくて、どうでもよくなりそう。コワイものだ。そろそろ交代、後退、交替だ。

春 Spring SAL

- キジキ式 SAL 優勝機 $S=1/10$
2006.3. by Hirao.



主翼面積 6.7 dm²
機体重量 主翼 41.5g
胴体 24.9g
計 66.4g
翼面荷重 9.9g/dm²
アスファルト 9.5

平面 $S=1/10$

主翼断面 $S=1/1$

胴体側面 $S=1/2$

改良型無尾翼羽ばたき機

2006.4. by H. Hira

完成重量 約 5g

JC-A-5 3.2x4条

翼は IP-スパンの紙

